

伊方原発 事故なら瀬戸内は

刃物店経営

(広島県 65)

福島第一原発から約200キロ離れた群馬県の赤城大沼や榛名湖のワカサギは、事故による放射性物質汚染により今夏まで出荷自粛していた。同じく200キロ離れた東京湾に注ぐ江戸川のウナギも放射性物質が検出され、千葉県による出荷自粛が今でも続いている。

愛媛県の伊方原発再稼働に地元知事と町長が同意した。伊方原発から200キロというところ、岡山県中部から西の中国地方と徳島・香川の一部を除く四国のほとんど、九州の大半が含まれる。伊方原発で事故が起

きれば、大気に放出される放射性物質は、東側が太平洋だった福島第一と違い、ほとんどが西日本各地の陸上と瀬戸内海に降り注ぐ。

福島第一では、放射性物質は広い太平洋に放出されたが、伊方では瀬戸内海に全量が流れ込む。瀬戸内海は閉鎖性水域で、水が入れ替わるのに約2年かかると言われている。

私は地元を中心に環境問題を考える活動を25年間続けてきた。伊方原発で事故が起きれば瀬戸内地方は大打撃を受ける。南海トラフ地震が心配される今、伊方原発の再稼働は中止していただきたいと願っている。